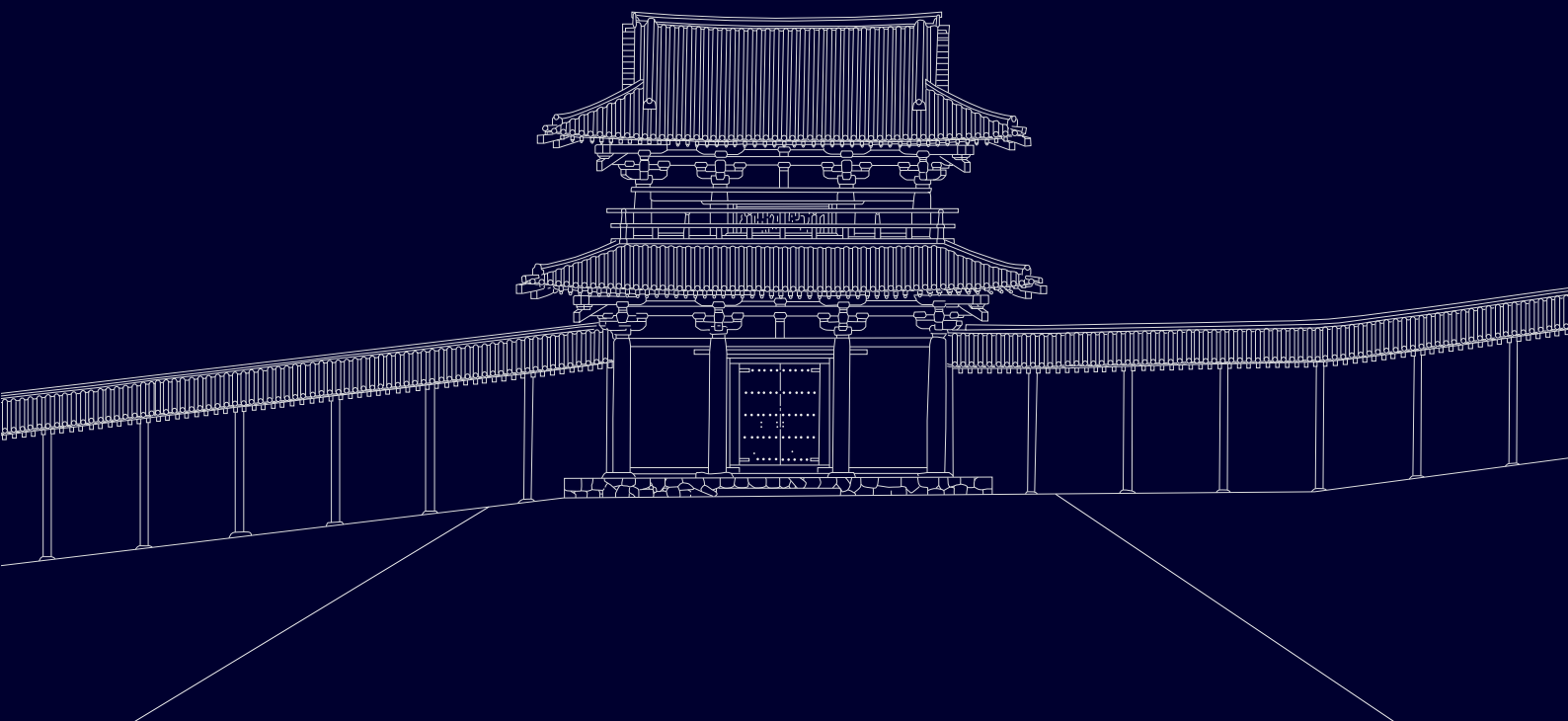
特別史跡多賀城跡附寺跡



特別史跡多賀城跡附寺跡

多賀城跡は、仙台平野を一望できる松島丘陵の先端、多賀城市市川、浮島に所在します。

江戸時代初め、多賀城碑の発見により遺跡が多賀城跡であることが判明して以来、多くの学者によって研究されその重要性が知られてきました。

また、地元住民による保護や、保存状態が良好であったことなどから、大正11年多賀城廃寺跡とともに国の史跡に指定されました。さらに、昭和35年から始まった発掘調査により、それまで軍事基地としてのみ捉えられていた多賀城の性格が大きく見直されることとなりました。こうした成果をうけ、昭和41年には特別史跡に指定され、その後、館前遺跡、柏木遺跡、山王遺跡千刈田地区が追加指定されています。

多賀城跡航空写真（東北歴史博物館提供）

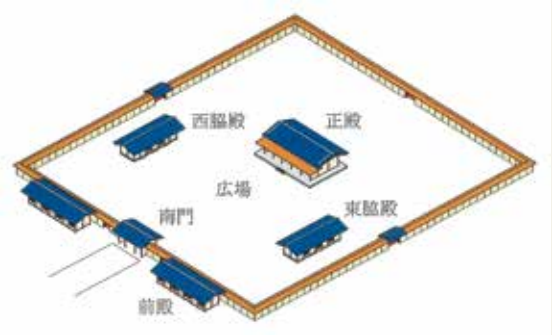
多賀城古趾の図

奈良時代	710（和銅3）	**平城京遷都**	第Ⅰ期
	712（和銅5）	出羽国を置く	
	718（養老2）	石城・石背の2国を置く（728年以前に廃止）	
	720（養老4）	蝦夷が陸奥按察使を殺害	
	721（養老5）	出羽国を陸奥按察使の管轄とする	
	724（神亀1）	蝦夷が陸奥国大掾を殺害する **大野東人が多賀城を築く** （多賀城碑による）	
	727（神亀4）	渤海使が初めて来朝し出羽国に至る	
	737（天平9）	大野東人、陸奥国と出羽柵との連絡路を開こうとする	
	741（天平13）	国分寺・国分尼寺建立の詔	
	743（天平15）	盧舎那大仏造営の詔	
	749（天平21）	陸奥守百済王敬福、小田郡で産出した黄金を献上する	
	760（天平宝字4）	桃生・雄勝の2城できる	
	762（天平宝字6）	**藤原朝獦が多賀城を修造する** （多賀城碑による）	第Ⅱ期
	764（天平宝字8）	藤原仲麻呂の乱	
	774（宝亀5）	陸奥国、大宰府に准じて漏刻を設置	
	776（宝亀7）	陸奥国が山海二道の蝦夷を討つ	
	780（宝亀11）	**伊治公呰麻呂の乱起こり、多賀城炎上する**	
	782（延暦1）	大伴家持、陸奥按察使・鎮守将軍となる	
	784（延暦3）	**長岡京遷都**	第Ⅲ期
平安時代	794（延暦13）	**平安京遷都**	
	797（延暦16）	坂上田村麻呂が征夷大将軍に任命される	
	802（延暦21）	坂上田村麻呂胆沢城を築く 夷首大墓公阿弖流為降服する	
	803（延暦22）	志波城造営	
	813（弘仁4）	この頃、徳丹城できる	
	869（貞観11）	**陸奥国大地震が起き、城下に津波が押し寄せる**	第Ⅳ期
	870（貞観12）	陸奥国、新羅人を瓦づくりに従事させる	
	907（延喜7）	唐滅亡	
	935（承平5）	平将門の乱が起こる（～940年）	
	1051（永承6）	前九年合戦はじまる（～1062年）	
	1083（永保3）	後三年合戦はじまる（～1087年）	

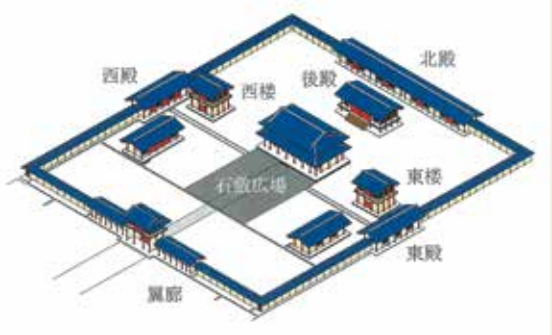
多賀城の役割と変遷

多賀城は、奈良・平安時代に陸奥国の国府が置かれたところで、奈良時代には鎮守府も併せ置かれました。神亀元年(724)、大野東人によって創建され、11世紀の中頃に終焉を迎えるまで、古代東北の政治・文化・軍事の中心地としての役割を果たしました。

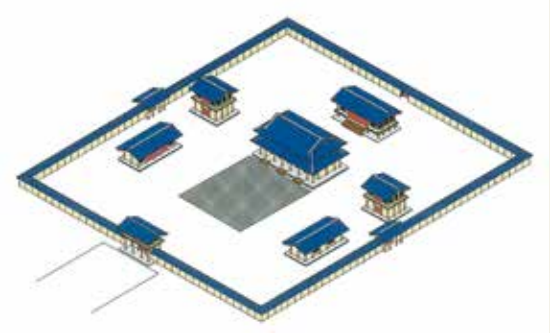
規模は、約900m四方で、周囲は築地塀(ついじべい)で囲まれ、南・東・西に門が開いていました。ほぼ中央には、儀式などを行う政庁があり、第Ⅰ期から第Ⅳ期まで４時期の変遷があることがわかっています。さらに城内の城前・作貫(さっかん)・大畑・六月坂・金堀・五万崎の各地区には、実務を行う役所や工房、兵士の宿舎などが置かれていました。



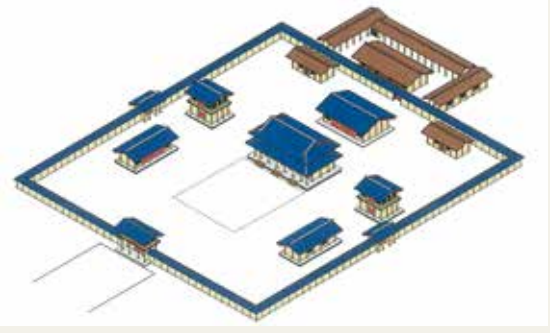
第Ⅰ期政庁　大野東人によって創建された。



第Ⅱ期政庁　藤原朝獦によって大改修された。全期を通して最も機能性と装飾性を兼ね備えていた。



第Ⅲ期政庁　伊治公呰麻呂の焼き討ち後に再建された。

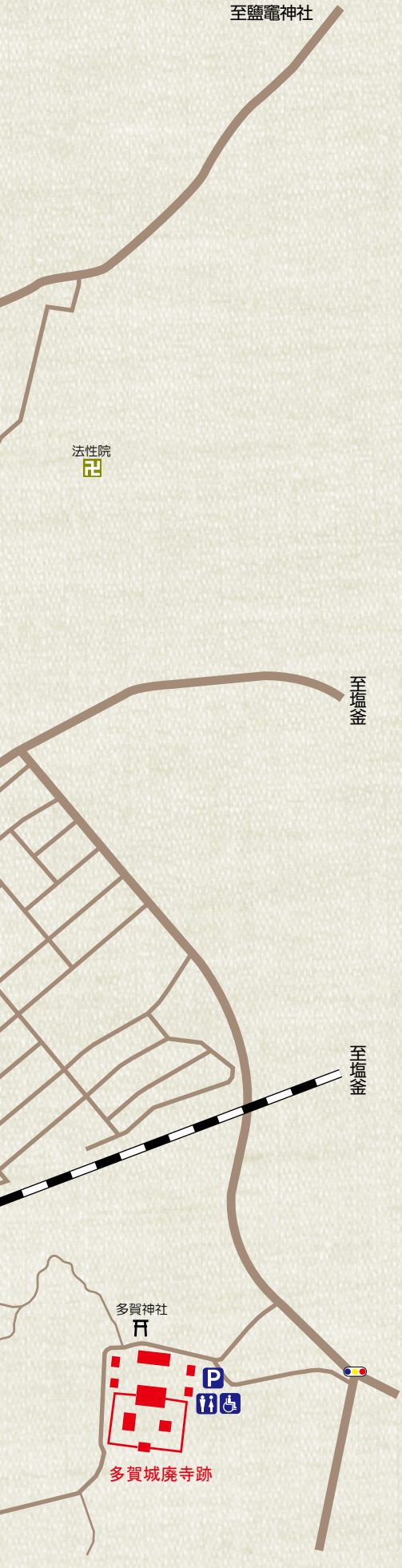


第Ⅳ期政庁　陸奥国大地震後に復興された。

（図：東北歴史博物館提供）

国宝　多賀城碑

特別史跡多賀城跡附寺跡 案内図



多賀城南門周辺航空写真（東北歴史博物館提供）

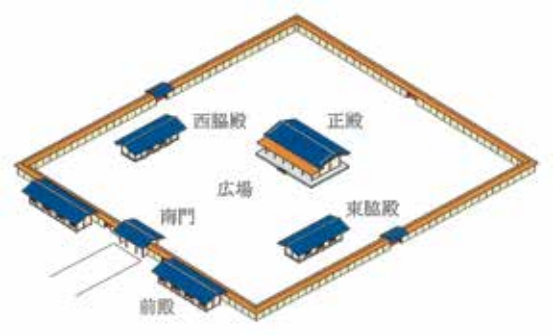
多賀城碑（壺碑）令和6年8月27日（国宝指定）

多賀城南門（政庁Ⅱ期：８世紀中頃）を復元

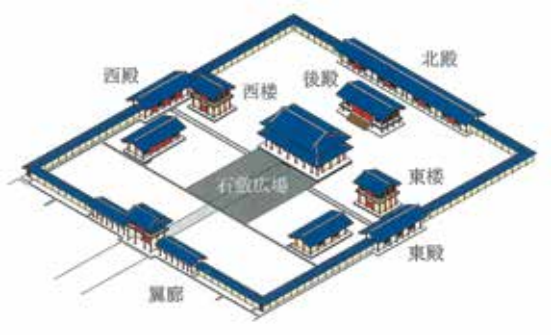
多賀城の役割と変遷

多賀城は、奈良・平安時代に陸奥国の国府が置かれたところで、奈良時代には鎮守府も併せ置かれました。神亀元年(724)、大野東人によって創建され、11世紀の中頃に終焉を迎えるまで、古代東北の政治・文化・軍事の中心地としての役割を果たしました。

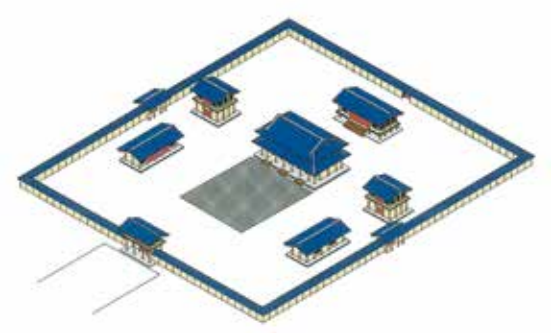
規模は、約900m四方で、周囲は築地塀(ついじべい)で囲まれ、南・東・西に門が開いていました。ほぼ中央には、儀式などを行う政庁があり、第Ⅰ期から第Ⅳ期まで４時期の変遷があることがわかっています。さらに城内の城前・作貫(さっかん)・大畑・六月坂・金堀・五万崎の各地区には、実務を行う役所や工房、兵士の宿舎などが置かれていました。



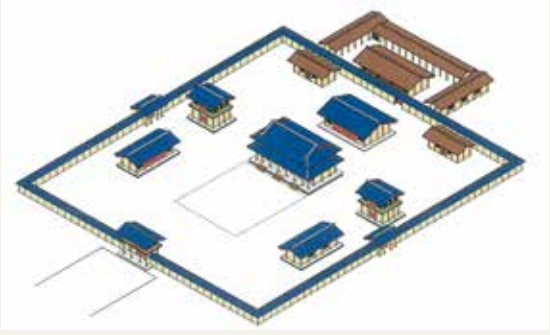
第Ⅰ期政庁　大野東人によって創建された。



第Ⅱ期政庁　藤原朝獦によって大改修された。全期を通して最も機能性と装飾性を兼ね備えていた。



第Ⅲ期政庁　伊治公呰麻呂の焼き討ち後に再建された。



第Ⅳ期政庁　陸奥国大地震後に復興された。

（図：東北歴史博物館提供）

国宝　多賀城碑

館前遺跡

多賀城跡の南東200mの台地上から、多賀城の政庁正殿に匹敵する規模の主屋を中心に、6棟の建物が発見されました。年代は9世紀ころで、多賀城に赴任してきた国司の邸宅か、あるいは多賀城に関わる重要な施設ではないかと考えられ、昭和55年に特別史跡に追加指定されました。

館前遺跡復元模型

柏木遺跡

多賀城跡から南東に約４㎞の大代地区にある遺跡です。丘陵の南斜面から製鉄炉、木炭窯、工房跡など、製鉄を行った跡が良好な状態で、まとまって発見されました。年代は、出土した遺物などから8世紀前半とわかり、多賀城直営の製鉄所跡ではないかと考えられ、平成２年に特別史跡に追加指定されました。

柏木遺跡復元イラスト

山王遺跡千刈田地区

多賀城跡の西方約１㎞、東西大路沿いに位置しており、大規模な建物跡や高級な陶磁器などが発見されました。中でも「右大臣殿（うだいじんどの）　餞馬収文（せんばしゅうもん）」と書かれた題箋軸木簡（だいせんじくもっかん）が出土したことで、この場所が10世紀前半頃の陸奥（むつの）守（かみ）の邸宅跡であることがわかりました。地方の役所で、国の長官の邸宅が明らかになったのは全国で初めてのことであり、平成５年、特別史跡に追加指定されました。

国守館の中心建物

重要文化財　題箋軸木簡

多賀城跡までのアクセス…多賀城ICから車で約3分　国府多賀城駅から徒歩約15分

Tagajo was, the capital of Mutsu Province during the Nara(710-784)and Heian (794-1185)periods.
It was also a military headquarters and fort in the Nara Period.From the time it was built by Ono-no Azumahito in 724 to its destruction in or around the middle of the 11th century, the site played a major role as the political and military center of the Tohoku region in ancient times.

Together with the Tagajo Temple Site, it was designated a national historical site, the" Tagajo and Affiliated Temple Site", in 1922. In 1966 it was elevated to the status of Special Historical Site. Other sites were designated later ,such as the Tatemae Site, the Tagajo South Side Area, the Kashiwagi Site and the Sanno Site's Sengarita District.

Tagajo covered an area of around 900 square meters, was surrounded by hardened mud wall(tsuiji walls) and had gates on its southern,eastern and western sides. The administrative center where important governmental functions and ceremonies were conducted was in the approximate center of the castle.
The history of Tagajo is divided into four phases marked by distinctive changes. Furthermore, other buildings where people worked such as other government offices, workshops and barracks were placed in the Jomae, Sakkan, Ohata, Rokugatsuzaka, Kanahori, and Gomanzaki districts within the castle.

JAPAN HERITAGE
日本遺産

特別史跡多賀城跡附寺跡

■編集・発行
多賀城市教育委員会
〒985-8531　宮城県多賀城市中央二丁目１番１号
TEL 022-368-5094　FAX 022-309-2460

2024.10

PRINTED WITH SOY INK
再生紙を使用しています。